

第7回 「養護教諭の複数配置は切実な課題」

学校には先生と呼ばれる教職員はたくさんいますが、生徒たちにとって司書教諭と養護教諭は成績評価を伴わない先生です。それ故に図書室や保健室は生徒にとっては心穏やかに何でも語れる場とも言えます。昨今の教育事情からすれば図書室や保健室の役割は重要になっているといえますが、それだけに多くの課題もあります。何よりも1人職種ということで負担が相当のしかかっています。

今回は、保健室から見た生徒、教職員の状況についてお二人の養護教諭から聞きました。

記者「群馬県高等学校教職員組合（以下高教組）は、群馬県教育委員会（以下県教委）に対して大規模校での養護教諭の複数配置を求めて運動してきましたが、今はどんな状況になっていますか。」

Iさん「2010年8月、新教職員定数改善計画が出されました。幸い、県内では全ての学校に養護教諭が配置されており、ほとんどの特別支援学校には複数配置がされています。しかし、高校においては本来複数配置となるべき生徒数801人以上の学校（県内12校）のうち複数配置されているのは3校だけ。そのほかは依然1人配置です。高教組と県教委との交渉では、『そのうち800人を割るので（複数配置の対象から外れる）…』と回答があるのみです。また、定時制・通信制課程においては、前橋工業高校・高崎工業高校・伊勢崎工業高校を除いては、非常勤講師でまかなわれています。」

複数配置のメリット

記者「そのうち800人を割るのでという県教委の言い分は、全く無責任としかいいようがありませんが、複数配置になればどんなメリットがありますか。」

Iさん「何よりも保健室には養護教諭がいつもいるという安心感があります。そして、生徒とゆっくり向き合うことができます。救急処置も2人で確認できて、安心して対応

できるし、複数の目で生徒を見ることができるので問題の対応に的確に当たることができます。たくさんの生徒の個別の相談に乗ることもできます。」

Jさん「私が勤務する学校はいわゆる進学校と言われていますが、心を病む生徒が多いです。しかし、部活動が盛んでほとんどの生徒が部活動に参加しているので、爆発するようなことはありません。保健室にはアスペルガー症候群、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥・多動性障害）などの発達障害、リストカットや自殺企図、自律神経失調症や適応障害、うつ等さまざまな問題が持ち込まれてきます。スクールカウンセラーが毎週決まった曜日に在駐しますが、一日の相談が保護者を含めて7人くらいに上ることもあります。生徒の在籍人数が多ければ多いほど問題が多岐にわたり、担任や学年主任、教育相談係等で連携を取って解決に向け当たっていますが、長期にわたる問題や保護者の協力も得なければならぬ問題も多く、（地域医療関係、フォロー機関との連携）毎日忙しい日々を送っています。」

記者「正に一人職種の厳しさが伝わってきますね。Iさんが言うように複数配置のメリットを考えるとすぐにでも実現して欲しいと思います。私も教育相談係をしたことがあります。こういった問題に他の先生方の対応はどうですか。」

Jさん「今は校内でのカウンセリングの研修も行われており、ほとんどの先生方は協力的ですが、なかには『わかってはいるが生徒に弱い部分もあるのでは…』と理解を示してくれない先生もいます。そういった先生は、『教育相談が生徒を甘やかしているから余計駄目になる』と言います。残念なことですが、協力的な人と無関心な人がいることは感じています。」

先生も心を病んでいる

記者「教育相談の難しさが出されましたが、前号で勤務時間のことを取り上げました。そのなかで『勤務時間内では終わらない量の仕事を抱え絶望感さえ感じる忙しさ』と語り、『若い世代を中心に病んでしまう教職員が今後も増えていくのではないのでしょうか。』と言っていました。教職員の心の健康のことも気になりますね。」

Jさん「私が思うに、そこには人間関係が大いに関係していますね。教員同士の人間関係がうまくいかないと組織的に動くことは難しいと思います。先生方にもスクールカウンセラーのカウンセリングを受けている人がいますが、疲れている人が多いと思います。大人になるとそういったことを素直に出せない人が多いと感じます。管理職にも考えてもらいたいですね。管理職にも

進言するのですが、生徒だけでなく、教職員の心身の健康を考えた学校運営をお願いしたいと思っています。保健室で愚痴ったり、そこまではいかなくてもふらっと来室してダベッていく先生がいます。しかし、私は6時間の授業時間のうち3～4時間も話に時間が取られると自分の事務仕事が滞ってしまいます。それを家に持ち帰って行くことになります。一週間続けると自分がヘトヘトになります。自分がこんな状態で生徒や先生方の話を聞けるのか、皆さんの健やかな学校生活をフォローできるのか、私は誰に毒をはけばいいのかと考えることもあります。」

Iさん「とっても共感できますね。養護教諭の複数配置の重要性をますます強く感じるのですが、実は県内では養護教諭の複数制に対する理解不足から、せつかく複数になったのに複数を引き上げてしまったケースがあります。養護教諭自身が、今までを振り返り、学校という組織のなかで複数でより良い仕事をしていく方策を考える必要を感じています。」

記者「私が思っていた以上に保健室の問題は深刻でした。まだまだ話し足りないことも多いようですので次号でも取り上げていきたいと思っています。」

